

小谷コレクション

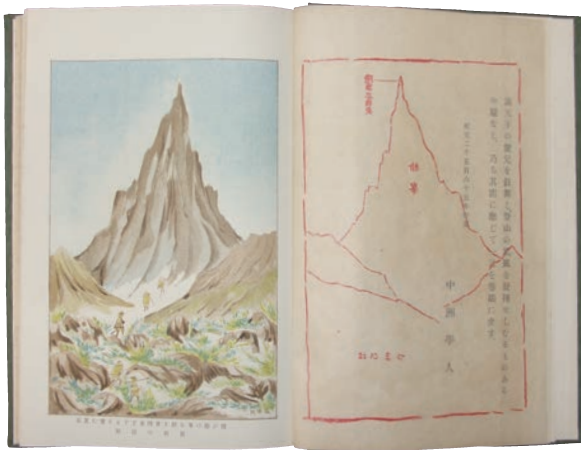
地元出版物

山岳図書も含め、書籍の出版というと、つい東京を中心に考えてしまいがちであるが、鉄道網が整備され、大量の書物が流通し始める明治時代末までは、地域での出版活動も盛んであった。長野県内でも有力書店を中心に多くの書物が出版されている。松本では、高美書店（甚左衛門）を中心に、教科書・歴史書を始め様々な分野の出版が手がけられ、山岳関係図書についても、日本古来の信仰登山から近代登山に至るまで、種々の書物が出版された。



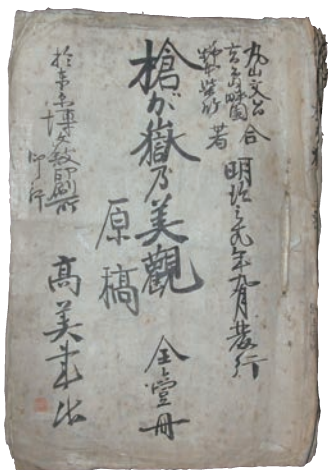
49 高美書店（高美甚左衛門 松本市中央）寛政9年（1797）－
（高美書店所蔵）

寛政9年（1797）創業の老舗書店。文化11年（1814）には、人気戯作家であった十返舎一九も本の取材に立ち寄っている。明治以降も教育・歴史・信仰・山岳関係の書物を出版し、松本のみならず、信州を代表する書店である。日記や台帳など、地域出版史を知る上で貴重な資料も多く残されている。写真は昭和3、4年（1928、1929）頃のもの。



45 槍ヶ嶽の美観 丸山注連三郎、高嶋伝二郎、野本又次著 明治39年(1906) 高美書店発行

小島烏水が登山者として槍ヶ岳初登攀をした翌年、明治36年(1903)8月に松本の小学校教員であった丸山注連三郎・高嶋伝二郎・野本又次が登山者として第二登を果たす。本書は、登山愛好家のために、登山日記、槍ヶ岳の生物・岩石・平原、播隆上人略歴などをまとめた、槍ヶ岳の総合案内ともいべき書である。

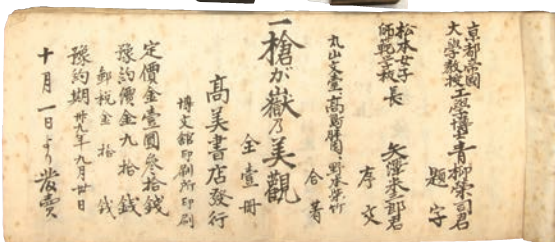


46 槍ヶ嶽の美観 原稿(高美書店所蔵)

『槍ヶ嶽の美観』の原稿。校正も高美書店内で行っていた。



47 槍ヶ嶽の美観 収支台帳・宣伝チラシ用書名版木(高美書店所蔵)



『槍ヶ嶽の美観』出版に関する収支台帳と、宣伝チラシ用書名版木。収支台帳は、『槍ヶ岳の美観』の発行部数が500部であったことや、印刷や郵送、宣伝経費など、当時の地域出版の状況を窺うことのできる貴重な資料。書名を彫り込んだ版木は、宣伝チラシ用に作られた。



50 信州御嶽山案内図記

明治 14 年 (1881) 高美甚左衛門発行 (高美書店所蔵)

江戸時代後期以降、各地からの信者で賑わった霊場、木曾御嶽山の案内図。黒沢・王滝両口からの参詣路や、池・滝・川が色刷りされている。高美書店では、本図や『御嶽経』などの御嶽関係書物が、明治 10 年 (1877) 代から盛んに出版されており、廃仏毀釈によって壊滅的状况となった御嶽信仰が復興していった様子が窺える。



43 御嶽神社縁起略記 小谷分喜編

明治 15 年 (1882) 高美甚左衛門発行

江戸時代後期以降、一大霊場となった木曾御嶽山の略縁起。著者の小谷分喜が、黒沢御嶽神社の神官である武居氏所蔵の秘書を選集したものという。蔵王権現など仏教の神は排除され、御嶽信仰の立役者であった覚命・普寛行者の事績の記述も最小限に抑えられるなど、廃仏毀釈以後の御嶽参詣の実態を知る上で重要である。



44 信府統記 鈴木重武、三井弘篤編

明治 17 年 (1884) 吟天社発行

松本藩の正史。享保 9 年 (1724) 成立。戸隠山の鬼女紅葉や、龍神の子である泉小太郎の伝承が取り上げられていることでも有名。発行元の吟天社 (北深志町。現在の縄手通り入口、旧鶴林堂所在地) は、高美甚左衛門が出資をし、社主として共同経営していた出版・印刷所。全 9 冊 32 巻が美麗・精緻な活版で印刷されている。



48 松本と安曇 平瀬泣崖編著 大正14年(1915)
鶴林堂書店発行

松本から大町に至る土地土地の故事来歴や民俗と、北アルプスの山々や温泉の案内記。著者の平瀬泣崖は、柳田国男とも親交のあった松本在住の民俗学者。本書には聞き取りによる民俗の情報も織り込まれ、貴重な資料ともなっている。鶴林堂(松本市大名町)は、明治23年(1890)創業。初代店主である小松甲子太郎は、高美書店に入店、修行した。



76 富士山図 作者不詳 江戸時代後期

富士山の立体地図。美しい円錐形を特徴とする富士山の姿を、立体の形で表現している。多数の古地図を持つ本コレクションの中でも、極めて珍しい一品である。地図上には、全ての登山口から山頂までの道程が描かれ、江戸時代に隆盛した富士詣での実態を知る上でも興味深い資料となっている。